

令和二年度 入学試験（令和二年一月十八日）

「国語総合」

戸田中央看護専門学校

一、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

江戸時代の絵師、伊藤若冲いとうわくちゅうのブームが続いている。

若冲は「奇想の画家」とも言われ、驚くべき精細さで鶏や雀、魚などの様子を描いた作品で知られる。とりわけ、京都の相国寺しょうこくじに寄進され、その後、皇室に（あ）ケンジヨウケンジヨウされた

『動植綵絵』どうしつさいえは、釈迦三尊の周囲にさまざまな生きものの姿を（う）迫真迫真のリアリティで描き切って、画家畢生の代表作とされる。二〇〇六年には、皇居東御苑の三の丸尚蔵館しょうざうかんで、修復作業が済んだ『動植綵絵』が五期に分けて展示された。ご覧になった方もいるだろう。

私は『動植綵絵』の中でも、『秋塘群雀図』しゅうたうぐんせきずが好きだ。

秋にたつぷりと実った穂に向かって、雀の群れが（い）飛来飛来する。すでに実をついばんでいるものも、羽を躍らせて、まさに止まろうとしているものもある。その中に、白い雀が一羽だけいる。他の雀とは明らかに見かけは違うが、しかし、それでいて仲間たちと同じように一生懸命に穂に向かっている。

この絵を眺めるたび、私は、若冲がそこに祈りに似たメッセージを込めたように思え、切なくも美しい心持ちがする。

若冲の手による『糸瓜群虫図』へちまぐんちゅうずを京都の細見美術館でじっくり見る機会があった。実業家で東洋古美術品のコレクターとして知られた、細見亮市氏が収集した作品群に由来する美術館である。

陽が西に傾く茶室で、亮市氏の孫で館長の細見良行さん自らが『糸瓜群虫図』を床の間に掛けてくださった。以前、展覧会でガラス越しには見たことがある作品ではあるが、やはり間近で見ると違ふ。（い）夕れ下がつたへちまに集うカマキリ、カタツムリ、キリギリスなどの虫たちの表情が、内側にぎゅっと縮んだバネを（う）ヒソめているかのように生き生きとしている。しばらく見ているうちに、若冲の（う）尋常尋常ならざるこだわりが、ひしひしと感じられ、その画業の奥深さに今さらながらに目を開かせられる思いだった。

遠くから見れば、どうせわからないだろうに、若冲は細かい所まで手を抜いていない。『糸瓜群虫図』を一億画素以上の超高精細のデジタル画像として取り込んだ結果、わかったことは、どんなに拡大しても、あらが見えないということでした、と細見さん。長年の所有者でさえ、じっくりと眺めてはじめて気づくような発見があるのだ。

目を近づけてはじめて明らかになる細部にまでこだわっているからこそ、あの迫力が生まれる。はるか昔の京都で、絵筆を持って丹精し続けた若沖の息づかいが感じられるようだった。

興味深かったのは、細見さんが、しきりに「若沖は最後の京都の町衆でした」と強調されたことである。

若沖が錦小路の青物問屋の主人だったことは、よく知られている。さほど経営に追われるわけでもなく、時間とおカネを好きにだけ費やして描かれる、一「自らの歓び」のための絵。高価な顔料を惜しむこともなく使ったから、あのような絵が描けた、と細見さんは語る。絵を売って稼ぐという商業活動としてではなく、あくまでも「町衆の趣味」として描き続けたからこそ、若沖は前人未到の境地に達したのだろう。

若沖の傑作を前にし、細見さんのお話を伺っているうちに、A何だか妙な気分になってきた。考えれば考えるほど、若沖の絵は京都そのものであるように思われてきたのだ。

容易に心の奥底を見せず、ちよつとえへんくつで、自らのおリュウギにこだわりがある京都人だからこそ描けた。私が「今まで考えてもみなかったけれど、若沖って京都そのものですね」とエ嘆息すると、同行の編集者が、「京都をよく知るものは皆、街は好きだが、人はちよつと……と敬遠するのですよ」と冗談を飛ばした。

現代の脳科学においては、人間の知性の本質は、他者とのコミュニケーションにあるとされている。言葉やその他の手段を通した他者との生き生きとした行き交いの中にこそ、人間の脳の本領が発揮されるのである。

ところが、不思議なことに、ときには他者との関係を絶って自らの内に籠ることが必要な場合もある。とりわけ、余人の及ばぬ境地に達しようと努力する中で、世間から離れて自分に向き合うことがロになる場合がある。

「フェルマーの最終定理」を証明したワイルズ博士は長い時間、自宅に籠った。ライブニッツに対抗するために成果の公表を急ぐ必要があったニュートンも、トリニティ・カレッジの自室で『プリンキピア』を書くことに集中した。ワイルズ博士やニュートンのように、他者との交渉を絶ち、自らの内に籠ることで発揮される脳の潜在能力がある。

周囲の人々と、あまりにもスムーズにコミュニケーションできてしまう人は、かえって遠くまで達することができない。ときに周囲から変わり者と思われるくらいのほうが、結果として人類全体に恩恵をもたらす。そのようなB脳をめぐるパラドックスには興味が尽きない。

伊藤若沖が人気を集めている背景には、何事にしてもコミュニケーション過多で、わかりやすさや最大公約数だけが求められがちな現代で、人々の中に“清涼剤”を求める気持ちがあるのだろう。

広い外界とのオ折衝など考えず、小さな世界に立て籠ることで、かえって世界全体に通じる三性を得ることができる場合もある。若沖の「こだわりパワー」は、私たちにそんなメッセージを伝えてくれるのである。

問一、 傍線部(あ)～(お)のカタカナを漢字に直しなさい。

【記述式解答】

- (あ) ケンジョウ (い) タ (う) ヒツ (え) ヘンクツ
(お) リュウギ

問二、 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

【記述式解答】

- (ア) 迫真 (イ) 飛来 (ウ) 尋常 (エ) 嘆息 (オ) 折衝

問三、 傍線部(A)「何だか妙な気分」とあるが、この語句を最もよく説明しているものを次の1～4から選びなさい。

【解答番号1】

1. 若沖の絵は、ちよつと偏屈で、自らの流儀にこだわりがある京都人が書いたものだということが徐々に分かってきたということ。
2. 若沖の絵を見ているうちに、それが「京都」というものを具現しているように思われてきたこと。
3. なぜあのように細部にこだわる絵がうまれたのかを考えているうちに、頭がぼわっとしてきたこと。
4. 最後の京都の町衆という言葉聞きながら絵を見ているうちに、頭が混乱してきたこと。

問四、 傍線部(B)「脳をめぐるパドックス」とあるが、この語句を最もよく説明しているものを次の1～4から選びなさい。

【解答番号2】

1. 他者との交渉を絶ち、自らのうちに籠ることで脳の潜在能力が発揮されること。
2. 言葉やその他の手段を通じた他者との生き生きとした行き交いの中で、人間の脳の能力は発揮されるということ。
3. 人間の知性の本質は、他者とのコミュニケーションにあるとされるのに、他者との関係を絶って自らのうちに籠ることが必要になる場合もあること。
4. スムーズにコミュニケーションできすぎてしまう人は、かえって遠くまで達することができないということ。

問五、 空欄 一 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号3】

1. いわば
2. しょせん
3. たかが
4. あくまでも

問六、 空欄 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号4】

1. 不可能
2. 不可思議
3. 不可避
4. 可能

問七、 空欄 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号5】

1. 主観
2. 万能
3. 普通
4. 普遍

問八、著者の主張に反するものを次の1～4から一つ選びなさい。

【解答番号6】

1. 若冲は町衆という身分のおかげで、惜しみなく高価な顔料を使い、自らの流儀にことんこだわって絵を描くことができたからこそ、優れた作品を生み出すことができた。
2. 現代の脳科学では、人間の知性の本質は、他者とのコミュニケーションにあるとされているので、京都人のように偏屈で、自分の世界に籠っているのは、知性を発揮することができない。
3. 過剰なコミュニケーションを図らず、小さな世界に立て籠ることで、かえって世界全体に通じる発想を得ることができる場合もある。
4. 若冲の絵は、彼がちよっと偏屈で、自らの流儀にこだわりのある京都人だけでなく、生活の憂いのない、裕福な商人であったからこそ描けた。

二、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

2018年6月5日、藤井聡太七段が公式戦で指した終盤の勝負手は、東京大学教授の酒井邦嘉(55)にとつて「人間の希望の手」だった。のちに「AIを超えた神の一手」と評されることになる。酒井は、AIが人間を超えるという「シンギュラリティ」を根底から疑問視する脳科学者だ。

「藤井さんの一手は、そのはるか前からの読みに支えられていて、コンピュータの数手前までの形勢判断や予測には現れにくい、勝ちを決める妙手だった」

紙の本を読むとき、脳ではこれと似た深い読みが鍛えられている、と言う。言語脳科学が専門の酒井は、アメリカの言語学者チョムスキーの難解な理論を脳科学の立場から平明に解説した「チョムスキーと言語脳科学」を今年出版した。

「みにくいアヒルの子」と書いてあるとき、わたしたちは何を読むだろう。「醜いアヒル」が、子を生んだのか(a)。アヒルの生んだ「子が醜かった」のか(b)。童話の内容を知るのは、bと読む。脳は自動的に「みにくい↓子」を結びつける。童話の内容を知らない者は、aかbか判断しようがない。文脈があつて解釈が定まる。

紙の本と電子書籍の本質的な違い、人間と機械の根源的な違いが、ここにある。文脈の流れを想像し、適切な展開を選びとる。

「推理小説を読むとき、物語の展開を追い、登場人物の関係、どんな場面だなにを言ったかを、脳は自動的に格納しながら読みます。その記憶は本という実体に対する感覚に、大きく依存しているんです。本の最初か、中ほどか。右のページか左か。へア～手がかりと共に記憶されます」

電子書籍でもネットのブログでも、ブックマークを付けて機械に覚えさせることはできる。「へイ～、パラパラとページをめくって読み返したいところがすぐに探せるような紙の本にはかなわない」

「みにくいアヒルの子」という、へウ～1本の本だけを読むならば、電子書籍も紙の本も変わらない。しかし木が集まった本の森では、文脈を確かめながら行きつ戻りつ読む機能で、紙の本にまさるメディアはない。森を俯瞰し、パラパラと繰って特定の木を見つけられる能力こそ、紙の書物の命であり、人間の脳の機能の根幹だ。

特に教科書が紙の本であるのが重要で、いま学んでいることが全体のテキストのどのあたりにあるのか、どのような位置関係で書かれているのか、それが脳に記憶されることがとても大切。教科書などを安易に電子化してしまつたら、取り返しがつかないことになるでしょう。へエ～思考や創造力までをAIにゆだねるようになってしまつたら、人間の希望である藤井さんの『神の一手』が、もう出なくなるかもしれないです」

教育がすべて。だから紙の本を取り戻さなくてはならない——。酒井は静かにそう語つた。紙の本が消えて、なくなるもの大きさが響いてきた。

問一、空欄へア～エ～に入ることはともともも適当なものを、次の1～4からそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|----|---------|---------|---------|----------|----------|
| へア | 1. いわば | 2. そうした | 3. むしろ | 4. あくまでも | 【解答番号7】 |
| へイ | 1. なるほど | 2. やはり | 3. しかし | 4. そもそも | 【解答番号8】 |
| へウ | 1. いわゆる | 2. つまり | 3. とはいえ | 4. いわば | 【解答番号9】 |
| へエ | 1. だが | 2. さらに | 3. もつとも | 4. およそ | 【解答番号10】 |

問二、筆者の主張を表しているものを次の1～4から選びなさい。 【解答番号11】

1. 紙の本を読むときに脳内で起こる事象は、チョムスキーの難解な理論で平明に説明できる。
2. 紙の本を読むとき、AIは文脈の流れを想像し、適切な展開を選びとることができる。
3. 教科書が電子書籍である場合、文脈を確かめながら行きつ戻りつ読むことができる。
4. 紙の書物ではパラパラッと繰って特定箇所を容易に見つけることができる。

問三、この記事の要約として適切なものを次の中から一つ選びなさい。 【解答番号12】

1. AIが人間を超えるという「シンギュラティイ」が実現しないことは、藤井聡太七段が指した「神の一手」からも明らかである。紙の本を全部電子化してしまったら、もう藤井さんの「神の手」は出なくなる。
2. 紙の本を読むときは、電子書籍とは異なり、実体に対する感覚から文脈の流れをつかみ、適切な展開を選びとることができる。もし教科書が電子書籍になったら、人間は思考や創造力まで失ってしまう。紙の本をなくすべきではない。
3. 「木を見て森を見ない」と言うように、物事の細部ばかり見て全体を見渡すことができればAIに負けてしまう。ここでいう紙の本はいわば森、AIは木である。
4. 「みにくいアヒルの子」という語句がなぜ直観的に「醜い、アヒルの子」という意味であると分かるかは、チョムスキーの言語理論で明らかにされている。

三、次の13～16のことばの使い方としてもっとも適当なものを、1～4からそれぞれ選びなさい。

【解答番号13～16】

13 アイロニー

1. 服にアイロニーをかけ忘れた。
2. このコメディ番組には独特のアイロニーがちりばめられている。
3. 友人代表のスピーチで、新郎との思い出を明るくアイロニーたっぷりに話した。
4. この静かなアイロニーに満ちた曲を聴くと、心が癒される。

14 異彩を放つ

1. 冷蔵庫の漬物の発酵が進んで異彩を放っている。
2. 近代的な建物が林立する中であって、本瓦葺きの店構えが異彩を放つ。
3. 西日が強烈な異彩を放ち、雲ひとつない空はまばゆい輝きに満たされていた。
4. 彼女の顔はとても柔和な異彩を放っていた。

15 昔取った杵柄

1. 我が家の新年の餅つきには、昔取った杵柄と臼がまだまだ役に立っている。
2. 歩いていたら、つまずいて転んでしまった。これも、昔取った杵柄のせいだ。
3. やはり昔取った杵柄だけあって、かなり朽ちている。
4. 祖母は久しぶりにお手玉を試みせたが、昔取った杵柄でとても上手だった。

16 他山の石

1. 隣町で事件が起こったが、しょせん他山の石だ。
2. ハイキングの記念に、つい他山の石を採ってきてしまった。
3. 尊敬する恩師の活躍を他山の石としたい。
4. 今回のA社に発生した問題は、この業界において他山の石となるだろう。

問四、次の文学作品の冒頭部分を読んで、それぞれの作者名を選びなさい。

【解答番号17～20】

17 山の手線の電車で跳飛ばされて怪我をした。その後養生に、一人で但馬の城崎温泉へ…

18 ではみなさんは、そういうふうには川だと云われたり、乳の流れたあとだと云われたり…

19 廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒ぐる溝に燈火うつる三階の騒ぎも……山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。

1. 夏目漱石
2. 志賀直哉
3. 宮沢賢治
4. 樋口一葉